

僕が掘られて
世界が平和

逆アナル
筋肉ふた×男

38P





僕が掘られて
世界が平和





は…？
いや…

ぼ、僕には
なんのことやら…

この男は一人さみしく
自室でオナニー
していただけである

しかしその自らを
慰めるために
上下していた手が

同じく魔界にてセンズリを
こいていたこのふたなりの
魔人の動きとシンクロし

どういうわけか
魔界と人間界が通じる扉を
開いてしまったのだ…！

意図してだか
偶然だかは
どうでもいいが…

扉が開いたことは
我にとって幸運

魔界は退屈な
ところであ

見渡す限りの
荒れた土地に
淀んだ空

生きるものは
全て犯し甲斐のない
腑抜けばかり

貴様のように
手淫に耽った方が
マシな環境だ

まあ我が
暴れまわった
結果だから

その点、この世界は
英気に満ちている
ようだな

ここに居るだけでも
そこら中で躍動する
魂の鼓動が我が心臓に
伝わってくるぞ

は、はあ…
随分評価が
高いんですね…

実に暴れ
甲斐がある

え…？

破壊と殺戮
久々に我が本分を
発揮できる…

感謝
するぞ
男よ

これ…
もしかして

やばい？

まだコイツが
何をしたわけ
じゃないけど、
本能でわかる…

圧倒的上位の存在…
全てを超越した
異界の生き物…



さて…
まずは一撃…

ま、待って…!!

やめましょうよ、
こんなこと

スッ

フー

ほら、郷に入っては
郷に従えなんて
言葉もありますし…



ここではむやみに
破壊や殺戮は…

その…刑罰とかの
対象に…

ふう…

ブーン

よし…まずは
貴様からにするか

ひいっ!



いつ...!?

グ
フ

フ

フ

!!

どれ、人間界の
肉穴を試させて
もらおう

ム
ニズ

フ

カ

ふむ…!



我が極大の
魔羅を安々と
啜え込み…

尚且つ
緩いわけでもなく
程度の良い締め…!

魔界の雑魚穴
などとは
まるで違う…

この世界の
肉穴は皆こうか？

それとも
貴様が特別か？

ハ—

ハ—

ハア

ハ

ハア

ハ

おおお！

おおお！！

110
110

110
110

110
110

110
110

あ、

ククツ…！
早くもこみ上げて
きおったわ…！



おおおおっ!

ドクン

ドクン

ドクン

…ふう…
いつ以来だ…?

久々に思い出したぞ、
激しく脈打つ
強烈な射精の感覚…

男よ、
素晴らしい穴だ

我から
これほどの種汁を
搾り取ったことを
誇りに思うがいい…

ハ—

ピク

ハ—

ピク

ハ—

ハ—

ピク

…あ…
…あ…

ピク

…いささか
気も晴れたな

貴様の
穴に免じて
一旦破壊は
延期してやる

へ…？
あ、ありがとう
ございます…

ハ—

ハ—

ハ—

我は寝るぞ

さて…
ひとしきり
精も出した

あ…
はい…

こ、これ…
どうしたら
いいんだろ…

魔界の扉つてのも
いつの間にか
消えてるし…

ぐが

が

とにかく機嫌を
損ねなかつたら
なんとかこの世界は
無事で済むのかな…

それにしても…
掘られるなんて…

うう…
苦しかった
はずなのに…
何故か…疼く…

翌朝

あの…
お名前は…

ああ名乗って
なかったか

……
ディギユレ

向こうでは魔人様
としか呼ばれて
なかった故な

危うく我が名を
忘れるところで
あった

ディギユレ…様…
あの…僕はこれから
仕事で家を
空けなきや
いけないんですが…

その間…大人しく
できますか…？

まるで幼子にでも
言い聞かしている
ようだな？

ひっ…

愉快的な
ことを言う…

そそそ
そんな
つもりは…

クク…
一々怯えるな

どれほど
外出するか
知らんが…

貴様の頼み
聞かんこともない

だが
これを見よ
玉が重くて
仕方ない

眠りから覚めたのなら
溜まり汁を排出せねば
一日は始まらん

貴様も粗末ながら
魔羅を持つ者…
理解できるだろう

わ、わからない…

あ、あの…
仕事に支障を
きたすので…

あまり
激しいコトは…

ふん…
ならば
どうする？

我を愛撫で
果てさせてみるか？



頑張つて
みます…

物足りなければ
即座に貴様の
肉穴を抉るぞ

恐怖のせいで
スルー
してたけど

おっぱい
すごい…



れろ♡

れろ♡

ち♡

ち♡

クリ♡
コリ♡

ドキ♡

ドキ♡

愛撫でここまで
昂らせるとは

穴だけの男では
ないようだな…

口を開けろ…
注いでやる…!

キュウウ

ハア

ウ

ウ

ハア

ハア

ハア

ウ

ウ

ウ

ウ





さっさと
仕事とやらを
終えて帰ってこい

貴様がいない間、
ここに留まって
いてやる

ゴボッ

ふう〜…
よかろう…



ゲホッ

ゴホッ

ビチャチャ



そうだよ…だったら
世界が破滅しようが
どうでもいいんだ…

でも…やっぱり
怖いものは
怖い…



最悪だ…ただでさえ
クソみたいな人生なのに…



…いつてきます…



…家には
魔人がいる…

フン
ようやく
帰ったか



…珍しく定時で
帰れても…



ズーッ…



ほう
人の娯楽か…
何もせんよりは
良からう

あと…ご飯
買ってきました…

食べますよね…?

カサッ



ただ待つのも
退屈で
かなわんな

微動だにせず
玉に欲が漲る感覚を
楽しむしか無い

その…良かったら
テレビとか
本とかいろいろ
あるんで…

そういうので
暇を潰して
もらって…

は…はあ…ずっと
その姿勢で…?

意外と
律儀だな…

クカカツ!
我に食事が
必要と思うか?

知らんよ…

内から精気が
無尽蔵に湧き
出てくるというのに

むしろ吐き
出さねばならん

そ、そう
でしたか…

失礼
しました…

だが

カッ

口にすることは
問題ない

貴様に注ぐ
精の量が
増すだけだ

こ、困る…

食らうという行為
実に久しいな…
なかなか悪くない

あ…良かった
です…

特にこの
牙を模した
緑の膜

食いづらくて
良いな

久しぶりでいえば
こうして誰かと
食事するのも
いつぶりだろうな…

相手が魔人さんでも
ちよつと嬉しいなんて
かなり病んでるな…

あ、バランは
食べ物
じゃないです…

さて…
貴様の見戯に
付き合うのも
ここまですて…

だいぶ待た
されたからな
玉が張って仕方ない

尻を出せ

はい…

やっぱり…

ズイ

ぬ ぶ…

ぐっ

やはり良いな
貴様の穴はっ！

同じ穴を二度
使うことなど
いままでも無かったが

我としたことが
心待ちにまで
するとは

ククッ：
たまらん



自分が今苦しいのか
気持ちいいのかも
わからないけど

魔人さんは僕の穴を
気に入ってるらしい…

頭が真っ白になる…
今日あった嫌なこと
全部飛ぶっ…

ほう…
貴様も随分興奮
しているようだな

熱り勃って
おるぞ？

体が狂うことを
望んでいるっ…

デイギユレ…
様あつ！

そうだ…貴様の
名を聞いて
なかったな…！

ふ、フミスケ…
ですっ

フミスケえ…！

腹一杯に注ぎ
込んでやるっ！



魔人ディギユレの影響で
フミスケの生活は
大きく変わった……
……ように思えたが

結局のところ
職場と家の往復を
する毎日に
違いはなかった

人の世では
布で隠すのか

そんな中魔人が居る
日常にも徐々に慣れてきて

もっと
隠した
ほうが……

魔人もまた、特に問題を
起こすこともなく

ククク……

人間の文化も
受け入れ

フミスケの肉穴さえ
捧げておけば
意外とおとなしい
ものだった

シニール系の
コントが
好きなんだ……

行為中に騒音を
注意にきた
住民もいたが

何用だ

魔人を見た瞬間
逃げ出しそれ以降
誰も近寄らなくなった

フミスケ

仕事とやらは
どうしても
行かねば
ならんのか？

まあ……それは
生きていくために……

飽きましたか……？
テレビとか
ゲームとか……

そうではない

貴様が
毎度疲弊して
帰って来るのが
気に入らん

え…？

貴様は私の
玩具だからな

変に衰弱して
穴が緩む
など許せんのだ

……そうは
言っても…

ただでさえ貴様は
魂に活力を感じぬ

これほど栄えた世の中に
生きている者とは思えん

ディギユレ様は…
魔界でも頂点で
こっちでも当然そう…

きっと強者だから
そう思えるんであって…

そのくせ穴は
極上だがな

僕みたいに漠然と
生きている弱者
だってたくさん
いますよ…

ふん、
弱者か

我を呼び出した手淫は
犯して犯して
行き着いた先ではなく…

誰からも
相手にされず
仕方なく行って
いたわけだ

まさか
そんな手淫が
我が手振りと
同じ律動とはな

普通オナニーって
そういうものでは…

なんか…
すいません

だが

喜べ

圧倒的
強者である
我は

貴様を
気に入っている

ぐっ

フミスケよ

貴様の肉穴が
我が欲を満たしている
限りこの世界は平穩

つまり貴様が
人間界の
救世主なのだ

そこらの
腑抜けとは違う

…え…?
慰めてくれ
てるんですか…?

どうしても
とるがいい…

それに…

我は知っているぞ
貴様のくすんだ魂を
輝かせる術をな…

ディギユレ様っ…

がしっ

クク…
いつからか

もはや
和姦だな

ク

ポッ

ハッ

ハッ

ハッ

我が欲を
ぶつけている時

貴様の魂が
奮い昂るのを
確かに感じる

我に犯されるために
生きているのか？

貴様は…！

そ…
そうかも
しれません…





接吻をすると
穴がよく
締まる…

ハ？

ハ？

ハ？

お♡

お♡

どんな姿勢で
犯ろうとも

愉しませて
くれるっ

ガ

バ

ハ

びく

ビキッ

ビキッ

ビキッ

ビキッ

ビキッ

ビキッ

ビキッ

ビキッ

ハ？

玉の底から種汁が
昇ってきておるわ

濃厚で

煮えたぎった

夥しい量の
粘り汁

生命の理を超越して
孕むやもしれんな

こんなものを
注ぎ込んだら

そろそろ
吐き
出してやる

え…!?
まさか…

ククク…
馬鹿が…♡

はーい

はーい

はーい

はーい

はーい

はーい





フミスケツ!

フミスケツ!

フミスケツ!

デイ…ギユ…

レッ様…!

はーい

はーい

はーい

はーい

ん♡♡

お♡♡

お♡♡

はーい

はーい

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ





人類よ…知る由も
ないだろう…

最近穴の具合が
より良くなったな…!

君たちがのうのうと
生きていられるのは

ディギユレ様あ!

やはり
飽きぬ…♡
貴様はっ!

僕がディギユレ様に
掘られているからと
いうことを…!

